

都市再生整備計画 事後評価シート
信濃国分寺地区

平成27年3月

長野県上田市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長野県		市町村名	上田市		地区名	信濃国分寺地区			面積	120ha		
交付期間	平成21年度～平成25年度		事後評価実施時期	平成26年度		交付対象事業費	908.0	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	市道 国分小岩門線、市道 黒坪4号線、国分常田線									
			提案事業	通学路安全施設整備事業									
	当初計画から削除した事業		事業名				削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
			基幹事業	国分(展望広場)、国分寺11号線、散策路整備(自然)、散策路整備(歴史)ルートサイン				国道18号バイパス事業に係る計画協議が地元と始まり、実施箇所にあたる本事業の実施時期を延期する必要が生じたこと。また、史跡信濃国分寺跡保存整備基本計画による信濃国分寺史跡整備が当初計画より遅れ、それに関連する本事業の実施時期を延期する必要が生じ、整備計画期間内に実施することが出来ないため事業を削除			事業の削除に伴い、目標、指標を一部削除した		
			提案事業										
	新たに追加した事業		基幹事業										
提案事業													
交付期間の変更		当初	平成21年度～平成25年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-					
		変更	-										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
								モニタリング	評価値				
	指標1	国分寺史跡の観光人口	百人	133	平成19年度	150	平成25年度	-	71	×	あり なし	当初計画されていた事業の一部削除等により、整備効果が発現されなかった。また、博物館の来館数の減少の理由に予見不可能な外的要因があることから、その他の指標1として再精査する必要がある。	平成27年5月
	指標2	歩道整備済延長	km	6.6	平成19年度	7.1	平成25年度	-	7.1	○	あり なし	基幹事業の整備が完了したことで、計画した歩道が整備され目標を達成できた。歩道が整備されたことにより、安全性の高い道路整備につながった。	-
指標3										あり なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
								モニタリング	評価値				
	その他の数値指標1	国分寺史跡の有料観光人口	百人	42	平成19年度				32.0			平成21年度に比べ減少しているが、高質空間形成を実施した平成23年を境に、回復傾向にある。基幹事業が完了したことにより、さらなる増加が見込まれる。	平成27年5月
	その他の数値指標2	国分西交差点の渋滞延長	km	0.5	平成21年				0.2			基幹事業の整備が行われたことで、道路が整備され、慢性的な渋滞が緩和されるとともに、快適性の向上につながった。	-
その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況	新たな市道整備と、既存道路の高質化により、国分寺史跡を中心とした神社仏閣、歴史的な街並みが残る狭い生活道路に進入する車両が減少し、地域内の安全性が向上したことにより、市民や来訪者が安全・安心に通行できる道路環境と、快適な生活空間が創出された。												
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加プロセス	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	持続的なまちづくり体制の構築		・人の集まる魅力的なイベントの開催、運営につながる学習活動。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						

様式2-2 地区の概要

信濃国分寺地区(長野県上田市) 都市再生整備計画事業の成果概要

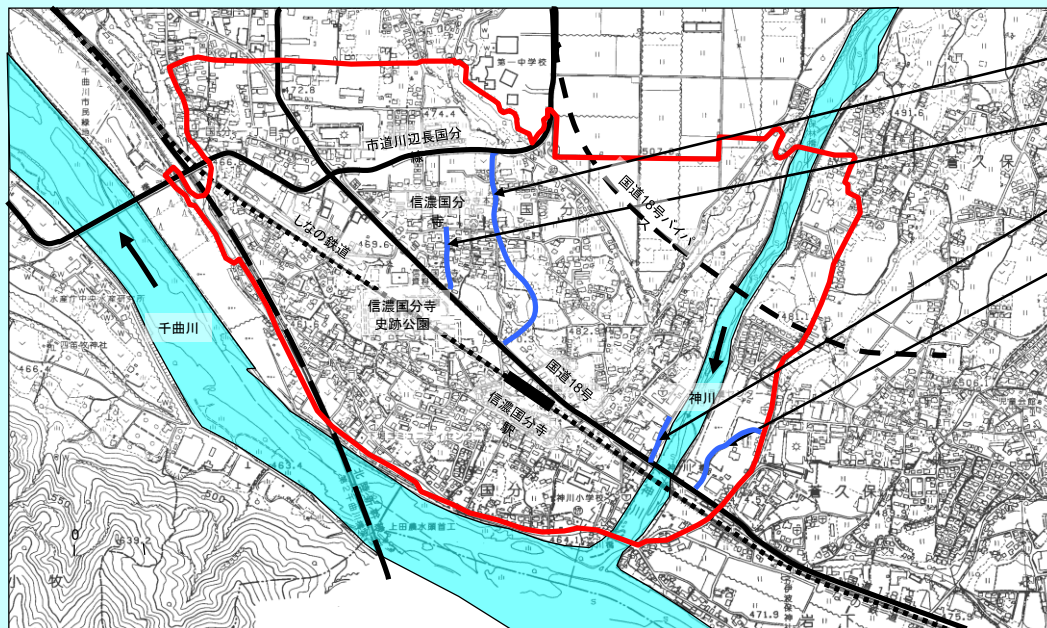
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
歴史と自然を活かし、市民及び来訪者の利便性、快適性を高める都市基盤整備を図り、安全で快適な生活空間の創出と歴史的景観の保全を図る。 ① 道路を整備し、観光充実による利便性と快適性の向上 ② 安全性の高い道路整備	国分寺史跡の観光人口	単位：百人 133 H19	150 H25	71 H25
	歩道整備済延長	単位：km 6.6 H19	7.1 H25	7.1 H25
		単位： H	H	H
		単位： H	H	H



【市道 国分小岩門線(基幹:道路)】



【市道 国分常田線(基幹:高質空間形成施設)】



市道国分小岩門線(基幹:道路)

国分常田線(基幹:高質空間形成)

市道黒坪4号線(基幹:道路)

通学路安全施設整備事業(提案:地域創造支援)



【通学路安全施設整備事業(提案:地域創造支援)】

まちの課題の変化

- ・新たな市道整備により、神川小学校や第一中学校の通学安全の確保が図られるとともに、地域内の狭い生活道路に進入する車両が減少し、地域の安全性が向上した。
- ・高質空間形成事業による既存道路の高質化により、国分寺史跡を中心とした歴史的な街並みが残る参道の景観が保たれ、沿線の景観意識の向上にもつながった。
- ・国道18号バイパスと市道が結ばれ、交通量が増加したが、基幹事業の整備により、交通の分散化が図られた。
- ・国道18号を中心に交通量が多く、交通渋滞が慢性的になっていましたが、基幹事業の整備により、交通の分散化が図れたことにより、交通渋滞が緩和された。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

一部事業が未実施であるため、未整備となっている散策路整備等の事業は、国道18号バイパス事業や信濃国分寺史跡整備の進捗状況により、実施可能時期を見極め、進めていく必要がある。